

JMFF

日機連週報

第3518号 2025年9月5日(金)

CONTENTS

● 委員会報告

安全はスタートであり、目指すは働く人の幸せ・ウェルビーイングである
技術イノベーション研究委員会「モノづくり現場の新しい安全 ～ICT活用
と協調安全で安全・健康・ウェルビーイングを実現する～」について聞く

● 政府公開情報

「GX戦略地域」に関する提案募集の開始について

● 委員募集中

技術イノベーション研究委員会のご案内

● 日機連の動き

● 会員イベント情報

(一社)日本包装機械工業会 「JAPAN PACK 2025 日本包装産業展/
Japan Packaging & Manufacturing Technology Show 2025」開催のお知らせ

(一社)日本木工機械工業会 「日本木工機械展/Mokkiten Japan 2025」開催のご案内

(一社)日本陸用内燃機関協会 「第25回技術フォーラム2025開催」のご案内

● お知らせ

(一社)日本時計協会 オフィシャルサイト「和時計の世界・時計のミュージアム」のご紹介
内閣府 「令和7年度交通安全白書」について

時事通信社 「経済安全保障対策会議・展示会 (ECONOSEC JAPAN)」のご案内

日機連ではホームページを開設しておりますのでご利用下さい。

URL : <https://www.jmf.or.jp>

[バックナンバーはこちらから](#)

<禁無断転載>

● 委員会報告

安全はスタートであり、目指すは働く人の幸せ・ウェルビーイングである 技術イノベーション研究委員会「モノづくり現場の新しい安全 ～ICT 活用と 協調安全で安全・健康・ウェルビーイングを実現する～」について聞く

技術イノベーション研究委員会（委員長・岡 徹 三菱電機株 上席執行役員 知的財産担当 開発本部長）は 8 月 5 日(火)に第9回委員会を開催した。明治大学・顧問・名誉教授・校友会名誉 会長、公益財団法人 鉄道総合技術研究所・会長、向殿政男氏から「モノづくり現場の新しい安全 ～ICT 活用と協調安全で安全・健康・ウェルビーイングを実現する～」と題し説明を聞き、意見交換した。(文責・日機連)



向殿政男氏

〔向殿氏講演要旨〕

1. はじめに

安全学という学問体系が提唱されてから、20 年以上が経つ。安全学において、安全は、技術(自然科学)、組織・規則(社会科学)、人間(人文科学)の三者が一緒になって、統一的に、総合的に、調和を以て実現されると主張している。さらに安全学に取り組んで行く中で、ICT の発達に伴い、従来は概念的な主張や提案だったものが、ICT を活用することで実現できるようになってきた。協調安全、コラボレーティブセーフティ(Collaborative Safety)という考え方で、モノ(技術)、仕組み(組織・ルール)、人(人間の能力)が情報を共有し、協動的に、ホリスティックに安全を実現するというものである。

安全技術の動向は、機械安全から機能安全へ発展してきているが、ICT を活用することにより、さらに協調安全・Safety 2.0 へと発展していく。

世界的には新しい動きが出て来ていて、安全・健康・ウェルビーイングという考え方が労働安全衛生の新しい価値観になると期待している。

2. 協調安全と Safety 2.0

改めて定義づけをしておく、協調安全とは、モノと人間と環境とが情報を共有することで、協調して安全を実現することである。しかし実際に実現させるのはまだまだ難しい状況である。自然科学、人文科学、社会科学のそれぞれの分野が個別に活動しているような状態と言って良い。

Safety 0.0 というのは、安全の技術が発達していない時代の「人による安全」であり、ヒトの安全意識、注意力、判断力により安全確保を行ってきた。しかし人間は間違いを起こすものであり、機械側・設備側を安全化することで人を守ろうという機械安全の発想、安全設計の考え方が出てきた。停止の安全、隔離の安全と言うが、動いている機械・装置には人を近づけない、近づくときはエネルギーを遮断するという考えで、Safety 1.0、「人と機械それぞれによる安全」である。Safety 1.0 は今までの安全の基本的な考え方であって、安全設計はこれで進んできた。しかし、それだと機械と人間一緒に仕事ができない。実際は、機械と人間が一緒になって仕事をする必要性がどうしても生じるというのが現実である。これらに対する安全をどう実現するかを次の目標として、協調安全 Safety 2.0「人と機械の協調による安全」を提案した。



Safety 2.0

Safety 2.0 の定義は、ICT を用いてモノ・人間・環境が情報を共有することで、協調して安全を実現する技術であり、協調安全を ICT を使って実現するという概念である。

協調安全・Safety 2.0 で何ができるかという、人間からバイタルデータや個人の体調情報や経験・能力情報を機械側・環境側に提供し、その情報をもとに機械設備の動作速度などを変える、注意喚起の方法を変えるなど、相手側の状況を判断して知的な対応ができるようになる。また、組織・制度・環境等のデータベースから機械設備、使用者等に個別に情報提供すると共に、リアルタイムに大量の情報を収集することも可能である。従来の機械安全の隔離と分離の原則による全自動化の発想から、全自動化できない分野で人間の能力をもっと生かした上で安全を実現しようという流れになっていて、作業者のウェルビーイング(安心感、働きがい等)の向上も実現しようという発想が協調安全・Safety 2.0 には含まれる。

協調安全・Safety 2.0 の考えはものづくり現場だけでなく、建設分野、交通分野、農業、ヘルスケアなどあらゆる分野に利用されつつある。

協調安全の提案を国際標準にしようという動きがあり、IEC の 2020 年の白書「Safety in the future」に Safety 2.0 と協調安全が取り入れられた。現在は IEC SyC-SM ahG7 (Collaborative Safety for Smart Manufacturing)にて検討中であり、IEC ガイド 127(予定)として正式発表のための認証の最終投票の段階にきている。

3. 最近の労働安全衛生活動

世界安全衛生会議は 1995 年に第 1 回をイタリア・ローマで開催以降、3 年に 1 回の間隔で開催してきた。ここで、リスクアセスメントや労働安全衛生マネジメントシステム等が発表されてきた。そして 2017 年第 21 回シンガポール大会にてビジョン・ゼロという概念が提示された。災害ゼロを目標にするという意味ではゼロ災害と同じものと言える。

このビジョン・ゼロが拡張・進化して、安全・健康・ウェルビーイングという重要な課題になった。ゼロ災からスタートした労働安全衛生は、新しい目標として、安全にかかわる身体的なケガだけではなく、

精神的障害、メンタルも含めた健康、そしてやりがい等を全部含めた考え方を設定した。技術面でもこれに合った技術、ウェルビーイングテックというものをやはり目指して変えていくべきだということである。

ビジョン・ゼロは安全・健康・ウェルビーイングの 3 要素の他に 7 つのゴールデンルールが設定されている。このルールの中で、トップがリーダーシップを取ってトップダウンを進めることを求めている。また安全に関する人材の投資も明示的に求めている。

ウェルビーイング言葉を日本語に訳そうとすると適切な言葉が見つからず、そのまま使用しているが、元々 WHO の憲章の健康の定義で、「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが well-being な(満たされた状態)にあることをいう」とあり、ウェルビーイングが使用されている。現代の意味合いとしてはもっと広い意味でウェルビーイングは、「体の状態」⇒「精神の状態」⇒「社会的状態(心の状態:存在意義)」と解釈されるようになってきた。これを広い意味のウェルビーイングと考えたい。

ウェルビーイングというものは、基本的に働く人を基に定義すべきだ。まず安全が基本で、安全な環境の下で健康に仕事ができ、やりがい・生きがいを持って仕事をする。順番は安全が先で、安全な環境を作り、健康に働けて、やりがいを持って働くとなる。それで働く人が幸せになる。働く人が幸せになるから、会社が活性化する。会社が活性化するから社会に貢献して社会が幸せになる。そういう順番を大事にしたい。

EXPO2025、大阪関西万博にて、万博で初めて安全をテーマとして取り上げた。IGSAP や ILO と協力して GISHW(Global Initiative Safety Health & Well-being)という組織を作り、シンポジウムを開催した。これを機会に次回以降も安全について万博で取り上げようという宣言がされており、引き続き取り上げられていくと期待している。今回の題目は、「未来への贈り物 80 億人の安全、健康、ウェルビーイング」であり、働く人の安全・健康・ウェルビーイングを実現することにより、地球人類 80 億人の安全、健康、ウェルビーイングにつなげようという意味が込められている。



4. 新しい安全の思想 ポジティブ安全

日本人の安全の取り組み方としては、本来あってはいけないものを減らそうというネガティブな領域をいかにゼロに近づけるかの努力をずっとしてきた。一方、安全の定義は、「許容不可能なリスクが無いこと(JIS Z 8051)」であり、絶対安全は無いということを宣言している。許容可能なリスクは残っていても良いということである。さらに ISO/IEC ガイド 51 では「許容することができないリスクからの解放: Freedom from risk which is not tolerable.」とあり、「小さいリスクは許容して認めて、安全を確保した上で明るく楽しく前向き行きましょう」という概念が安全にはある。

これからの安全は、怪我をしないという身体的な安全、病気をしないという身体的な安全、メンタルにならない精神的な安全、これら従来のネガティブな領域をゼロにするという概念だけではなく、ゼロからプラスに向かっていこうというポジティブな領域、つまり、安心して仕事をしたい、元気に仕事をしたい、意欲的、健康に仕事をしたい等も含めて、ネガティブな部分とポジティブな部分を両方を含んだ安全と言うかたちにしていきたい。つまり、事故を削減し、従来のリスクを低減してマイナスをゼロに近づけるやり方にプラスして、安心感の向上とウェルビーイングの向上を実現することを安全の仕事

にしようと考えている。

そうすると、安全概念の拡大により広義の安全の概念が発生する。これを 3 つの要素を並べて「安全・健康・ウェルビーイング」として安全のターゲットとする。もう一つ、ネガティブ領域だけでなくポジティブ領域も広げようという、ポジティブ安全の取組みが重要である。ポジティブ安全の取組みが成果を上げることにより、企業の中で安全担当者が高く評価されるということになるのではなかろうか。故に安全はポジティブ安全で行こうということである。

5. まとめ：安全は、終わりではない、スタートである

安全は、終わりではない、スタートである。この観点から安全がどう展開していくかを以下のようにまとめた。

- * 技術：安全装置⇒安全保護具⇒機械設備安全⇒Safety 2.0
- * 主体：作業員⇒技術⇒管理⇒マネジメントシステム⇒協調安全
- * 対象・思想：安全(身体)⇒健康(病気、精神)⇒安心⇒ウェルビーイング⇒ポジティブ安全
- * 基本は、安全に在る。安全はスタートだ。目指すは、働く人の幸せ・ウェルビーイングである。

そして、安全・健康・ウェルビーイングを技術的に実現するというものに目を向ける時代である。企業において、安全技術と労働安全衛生というものは別の分野のように考えられることが多いが、私にとっては同じであって、ゼロ災、ビジョン・ゼロから始まって、安全・健康・ウェルビーイングに繋がるのではなかろうかと思っている。

安全は将来を明るくする仕事であり、こんなに面白く、良い仕事はない。

新しい安全技術(Safety 2.0)と安全思想(協調安全)をしっかりと持ち、新しい労働安全衛生(Vision Zero: Safety, Health, well-being for workers)という概念の下で社会に貢献する。企業を通じて社会に貢献する。企業は労働者の安全性と機械設備の生産性を両立することによって企業価値を上げ、社会に貢献する。つまり安全は社会を明るくする仕事である。

VISION ZERO
Safety. Health. Wellbeing for workers



● 政府公開情報

「GX 戦略地域」に関する提案募集の開始について

経済産業省では、同省のホームページにおいて、「GX 戦略地域」に関する提案募集を開始しましたので、お知らせします。

詳細は、以下ホームページを参照願います。

<https://www.meti.go.jp/press/2025/08/20250826003/20250826003.html>

2025 年 2 月 18 日に閣議決定された「GX2040 ビジョン」において、GX 産業構造の実現に向けた取組の一つとして GX 産業立地政策の考え方が示され、これを踏まえて、内閣官房に設置された「GX 産業構造の実現に向けた GX 産業立地ワーキンググループ」において、GX 産業立地政策の具体化が進められ、①コンビナート等再生型(GX 新事業創出)、②データセンター集積型、③脱炭素電源活用型の 3 類型が整理されました。



政府は、8 月 26 日開催の GX 実行会議を踏まえて、3 類型に対して、規制・制度改革と支援策を一体で措置する「GX 戦略地域」制度を創設することとし、8 月 26 日～10 月 27 日、自治体及び事業者等からの提案を募集しております。

脱炭素化については、米国トランプ政権がパリ協定再離脱するなど後ろ向きの動きも見られますが、2050 年のカーボンニュートラル達成に向け、世界では着実に投資が進められています。我が国でも産業界への GX に向けた設備投資の拡大要請は継続するため、日機連では、令和 8 年度税制改正に関して、令和 7 年度末に期限を迎える「カーボンニュートラルに向けた設備投資促進税制」の延長と制度拡大を要望する予定です。



経済産業省

Ministry of Economy, Trade and Industry

[経済産業省オフィシャルサイトへのリンクはこちらから](#)

〔総務部〕

● 委員募集中

技術イノベーション研究委員会のご案内

日機連では、分野別に 4 つの研究委員会(技術イノベーション研究委員会、GX 研究委員会、グローバル・バリューチェーン研究委員会、企業マネジメント研究委員会)を設置し、会員参画の下で活動を行っています。会員企業、会員団体のみなさまは、登録(委嘱)手続きのみで委員会へのご参加が可能となりますので、この機会に是非ご登録をご検討ください。

今回、ご案内するのは技術イノベーション研究委員会です。

技術イノベーション研究委員会では、「(1) 社会経済構造変化に対する機械産業の課題」、「(2) DX による製造業のイノベーションに関する調査」、「(3) 最新の先端技術のトレンド把握と注目技術の情報収集」を柱にテーマ設定を行い、有識者をお招きして意見交換及び課題検討を行っています。

<第 10 回技術イノベーション研究委員会>

- 日程:2025 年 9 月 22 日(月) 13:30~15:00
- テーマ:「デジタル経済レポート: 聖域なきデジタル市場の到来と機械工業産業を飲み込む SDX(software-defined everything)、および、「ウラノス・エコシステム: AI 革命を起点にデータが飲み込む世界のミドルウェア戦略と ODS(ウラノス・エコシステム・データスペース)(仮)」
- 講師:(独)情報処理推進機構 デジタルアーキテクチャ・デザインセンター(DADC) 情報分析官 併)デジタル基盤センター 併)経営企画センター 国際・産業調査部 津田 通隆 様

今回、研究委員会への登録にご興味をお持ちの会員様を対象に、お試しでの Web 参加を受け入れます。会場でのご参加は、研究委員会へのご登録後に可能となります。お試し Web 参加をご希望の方は、以下、必要事項を 9 月 11 日(木)までに事務局メールアドレスにご連絡ください。研究委員会当日までに Web 会議用の招待メールをお送りします。研究委員会へのご登録に際しては、役職・年次・年齢等の制限は一切ございませんので、是非お気軽にご検討ください。なお、お試し Web 参加をされた会員様には、後日、研究委員会へのご登録に関するご案内をお送りしますので、予めご了承ください。(会員様の委員登録は、無料です)



(出所)経済産業省

<お試し Web 参加 お申込み例/申込期限:2025 年 9 月 11 日(木)>

件 名:第 9 回技術イノベーション研究委員会 お試し Web 参加希望

本 文:①企業名/団体名:一般社団法人日本機械工業連合会

②ご所属:経営企画部 ③ご役職:主任 ④氏名:機械 花子(きかい はなこ)

⑤メールアドレス:sample123@jmf.or.jp

お試し WEB
参加募集中

<委員会登録お問い合わせ先>

事務局:日本機械工業連合会 業務部 (gyomu@jmf.or.jp)

[業務部]

日機連の動き

- GX研究委員会(委員長・後藤雄三 (株)荏原製作所 グループリスク管理統括部 統括部長)は 8 月 26 日(火)に第 10 回GX研究委員会を東京都国分寺市の(株)日立製作所 中央研究所「協創の森」で開催した。中央研究所はイノベーション創出を加速するための研究開発拠として、SDGs の達成、Society 5.0 の実現に向けて、オープンなイノベーションエコシステムのプロセスの概念を施設に取り入れ、英知と技術の融合によるイノベーションを発信する研究開発拠点となっている。当日は日立製作所の会社概要、研究開発の概要、「協創の森」の概要の説明を受けた後、協創棟の見学を行った。さらに、日立製作所が取り組むサーキュラーエコノミーについての研究について説明を受け、質問及び意見交換を行った。その後、創業者で初代社長の小平浪平氏の「良い立木は切らずよけて建てよ」の言葉を受け約 120 種、27,000 本の樹木が残された広大な「協創の森」の庭園を散策しながら、意見交換を行った。



「協創の森」の庭園集合写真



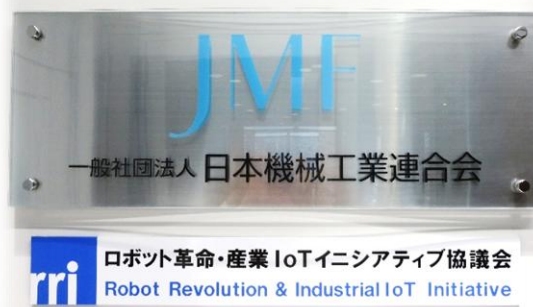
プレゼン会場風景

- 大阪事務所では、8 月 26 日(火)、第 715 回総務懇話会(代表幹事・森田光浩 住友重機械工業(株) 関西支社 総務部 部長)を日機連大阪事務所で開催し、(株)Spectee(スペクティ) 代表取締役 CEO 村上建治郎氏から「グローバル・サプライチェーンの危機管理～AI による災害リスクの見える化とその対策～」と題し、講演を聞き意見交換を行なった。



○ 今後の会合予定

開催日時		会 合 概 要	場 所
9 月	9 日(火) 15:30～	第 98 回(2025 年度第 2 回)関西事業活力研究委員会及び懇談会(大阪事務所)	ホテル阪急 インターナショナル
	13 日(土)	関西日機連杯(大阪事務所)	よみうり カントリークラブ
	18 日(木) ～19(金)	第 11 回 GX 研究委員会・見学会	青森県むつ 小川原地区
	19 日(金) 13:30	第 2 回機械安全規格改定のための調査研究 WG	日機連会議室 3
	22 日(月) 13:30～	第 10 回技術イノベーション研究委員会 講演:・デジタル経済レポート: 聖域なきデジタル市場の到来と機械工業産業を飲み込む SDX(software-defined everything) ・ウラノス・エコシステム: AI 革命を起点にデータが飲み込む世界のミドルウェア戦略と ODS(ウラノス・エコシステム・データスペースズ) 講師:(独)情報処理推進機構 デジタルアーキテクチャ・デザインセンター(DADC)情報分析官 津田通隆様	日機連会議室 1 お試し WEB 参加募集中
	25 日(木) 13:45～	第 609 回関西団体協議会・見学会(大阪事務所)	大阪府大東市
	26 日(金) 13:30～	第 102 回社員満足向上懇話会・実務担当者部会及び懇談会(大阪事務所)	梅田センタービル
10 月	1 日(水) 16:00～	第 114 回税制金融政策特別委員会(意見交換会)	日機連会議室 1・2
	3 日(金) ～4(土)	第 716 回総務懇話会见学研修会(大阪事務所)	青森県上北郡 六ヶ所村
	8 日(水) 15:30～	第 12 回企業マネジメント研究委員会 テーマ:「パナソニックグループのサイバーセキュリティ戦略と工場&製品セキュリティの取組みの詳細(仮)」 講師:パナソニックホールディングス株式会社 サイバーセキュリティ統括室(兼)製品セキュリティセンター 松本 哲也様	日機連会議室 1 お試し WEB 参加募集中



会員イベント情報

(一社) 日本包装機械工業会 「JAPAN PACK 2025 日本包装産業展／
Japan Packaging & Manufacturing Technology Show 2025」開催のお知らせ

[一般社団法人 日本包装機械工業会 \(JPMMA\)](#)では、国内外の包装機械、包装資材、包装材料加工機械、食品加工機械、医薬・化粧品製造機器、物流機器および関連機器の新製品を展示公開し、産業の合理化と国民生活の向上に寄与するとともに貿易の振興を図り、業界の発展に資することを目的とする展示会「JAPAN PACK 2025 日本包装産業展／Japan Packaging & Manufacturing Technology Show 2025」を開催いたします。

今回のテーマは、「BEYOND | 包むで創る 人と未来と Create the Future of Packaging Together」で、これまでの包装の常識や通念を“超えて”革新的なイノベーションを「包むで創る」。様々な課題を乗り越えて”持続的に発展して「人と未来を」豊かに。更に広がる包装産業展を実現します。

会期中は、様々な講演セミナー等も開催されます。詳細スケジュールは、[公式ホームページのこちら](#)をご参照ください。この機会に、ぜひ「JAPAN PACK 2025 日本包装産業展」にご来場ください。



記

「JAPAN PACK 2025 日本包装産業展」開催概要

開催日時：2025 年 10 月 7 日(火)～10 日(金) 4 日間

主 催：(一社) 日本包装機械工業会

会 場：東京ビッグサイト 東展示棟 4～8 ホール

(〒135-0063 東京都江東区有明 3-10-1)

テ ー マ：「BEYOND | 包むで創る 人と未来と Create the Future of Packaging Together」

出展情報、イベント等の詳細情報については、[「JAPAN PACK 2025 日本包装産業展」オフィシャルサイト](#)で公開しておりますので、ぜひご覧ください。[来場者登録はこちら](#)からどうぞ。



[JAPAN PACK 2025 日本包装産業展、オフィシャルサイトをチェック!!](#)

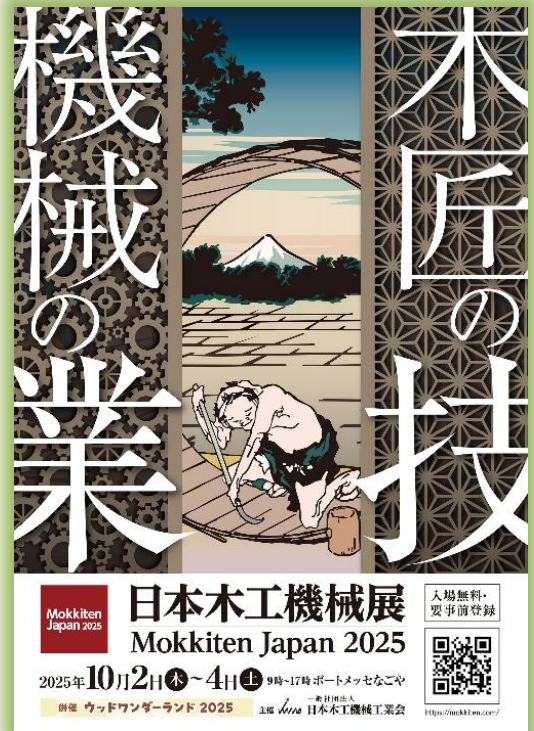
(一社)日本木工機械工業会、 「日本木工機械展／Mokkiten Japan 2025」開催のご案内

[一般社団法人日本木工機械工業会](#)では、今回で 47 回目を迎える「[日本木工機械展／Mokkiten Japan 2025](#)」が、2025 年 10 月 2 日(木)から 4 日(土)まで、ポートメッセなごや第 1 展示館にて開催いたします。本展は、木材、源泉となる森林の重要性を広め、その持続可能な利活用を機械システムでサポートする国内外の機械メーカー・販売商社による日本最大の展示会です。

今回のテーマは「[木匠の技・機械の業](#)」です。昨今の人手不足問題は単なる労働人口の問題ではありません。先人たちが有していた、木を見る目、それぞれの木に適した加工技術等、職人的な技能も少しずつ失われつつあります。

この問題を解決していくこと、すなわち匠の技を機械の業で継承していくことも業界の大きな使命です。高度画像処理、AI、IoT、ロボット技術等の進化により、こうした問題を解決する機械システムが数多く開発され、皆様を会場でお待ちしています。

今回の展示会開催時期は、同時に 2025 年日本国際博覧会(大阪・関西万博)の会期中でもあります。万博会場のシンボルでもあり、世界最大級の木造建築物である「大屋根リング」をご堪能頂き、まさに未来に向けた木材の可能性を体感して頂きながら、本展示会にもお越しく下さい。この機会に、木工加工関係者やご興味のある方、お一人でも多くのお客様にご来場頂ければ幸いです。



記

「日本木工機械展／Mokkiten Japan 2025」概要

目的	内外の優秀な木材加工機械・林業機械および木質系再利用機器ならびに関連製品等を一堂に展示・紹介し、木材加工産業並びに環境産業における生産設備の合理化および商取引の促進と貿易の振興に貢献し、これらの産業の発展に寄与することを目的とする。	
会期	2025 年 10 月 2 日(木)～10 月 4 日(土)3 日間 9:00～17:00	
会場	ポートメッセなごや(名古屋市国際展示場) 第1展示館、屋外展示場 〒455-0848 名古屋市港区金城心頭 3 丁目 2 番 1 号	
入場料	無料 (事前登録制)	主催 一般社団法人 日本木工機械工業会

Mokkiten Japan 2025

[日本木工機械展公式サイトへのリンクはこちら!](#)

(一社)日本陸用内燃機関協会
「第 25 回技術フォーラム 2025 開催」のご案内

[一般社団法人 日本陸用内燃機関協会](#)では、技術向上を目的とした「**第 25 回技術フォーラム 2025**」を下記のとおり開催いたしますので、多数の方々のご参加をお願い申し上げます。本年は会場(北海道大学)と Web 併用開催(Teams 利用)といたします。

今回の講演テーマは、以下の通りです。① 小型汎用エンジンにおける CN 燃料への取り組み ② 建設機械用 ディーゼルエンジン DBA127 の開発 ③ Flexible operation on sustainable alcohol fuels ④ 大学の先生方にも出席いただき全体討論会 また、技術フォーラム開始前に、希望者には、北海道大学柴田研究室の見学をしていただく予定です(40 名が上限)。

記

<第 25 回技術フォーラム 2025 概要>

日 時 : 令和 7 年 9 月 29 日(月) 13:00~16:30(12:00-13:00 研究室見学)

会 場 : 北海道大学 工学部 B31 講義室および Web 併用開催(Teams 利用)

主 催 : (一社)日本陸用内燃機関協会

定 員 : 40 名程度(会場)+200 回線(WEB 参加)

参加費 : (一社)日本陸用内燃機関協会 会員会社・グループ会社社員:無料、 会員外:10,000 円

プログラム:

12:00~13:00 北海道大学 工学部 柴田研究室 ディーゼル関連研究施設を見学 (希望者のみ)

13:00~13:10 開会挨拶 (一社)日本陸用内燃機関協会 会長 田尾 知久

13:10~13:50 **小型汎用エンジンにおける CN 燃料への取り組み** (株)Wilbe 成田紘之氏

13:50~14:30 **建設機械用 ディーゼルエンジン DBA127 の開発** (株)アイ・ピー・イー 小野 穰氏

14:30~15:15 **Flexible operation on sustainable alcohol fuels** IAV(株) Dr. GOTTSCHALK (要約 柴田潤氏)

15:30~16:30 **全体討論会 (パネルディスカッション)** 司会:慶應義塾大学名誉教授 飯田訓正氏

パネラー:北海道大学 准教授 柴田 元氏、東京科学大学 教授 小酒英範氏、

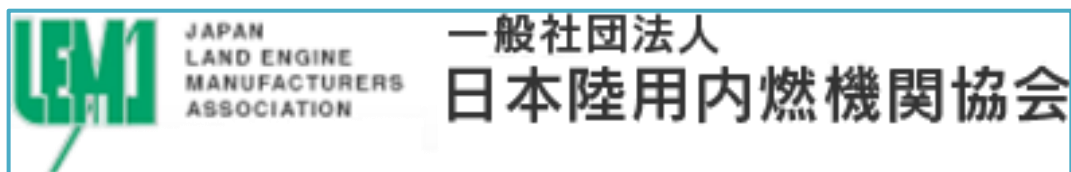
千葉大学 教授 森吉 泰生氏、東京都市大学 教授 三原雄司氏

注)回線の混雑を避けるため、複数 WEB 参加の方は可能な限り会議室等で集合しての視聴をお願いします。

その場合は、代表者お一人の申し込みで結構です。

申込方法 : [\(一社\)日本陸用内燃機関協会公式ホームページのイベントページ](#)よりお申し込みください

申込締切 : **令和 7 年 9 月 22 日(月)** 見学は 40 名上限



問合せ先 : (一社)日本陸用内燃機関協会 事務局 西村

〒162-0843 東京都新宿区田町 2-37 千代田ビル 2F

Tel: 03-3260-9101 Fax: 03-3260-7965 E メール: nishimura@lema.or.jp

お知らせ

(一社) 日本時計協会 オフィシャルサイト
「和時計の世界・時計のミュージアム」のご紹介

[一般社団法人 日本時計協会](#)のオフィシャルサイトでは、日本の時計や暦に関する様々なコンテンツを公開しております。特に、「[和時計の世界](#)」では、江戸期から作られた機械時計の歴史について、暦、和時計の仕組みや種類等、様々な興味深い情報が掲載されております。詳細については、オフィシャルサイトの「[和時計の世界](#)」ページをご覧ください。



(一社)日本時計協会の[「和時計の世界」のコンテンツへのリンクはこちら](#)。

さらに、「[時計のミュージアム情報](#)」では、日本全国の時計に関する博物館・資料館の情報が公開されております。ご興味を持たれた際には、ぜひ、チェックしてみてください。

時計のミュージアム情報



[時計のミュージアム情報へのリンクはこちら！！](#)

(一社)日本時計協会では、他にも時計の技術情報、統計、産業関連の様々な情報をオフィシャルサイトで公開しておりますので、併せてご覧ください。



JCWA 一般社団法人日本時計協会

[\(一社\)日本時計協会のオフィシャルサイトをチェック！！](#)

内閣府「令和7年度交通安全白書」について

内閣府より、「[令和7年度交通安全白書](#)」について事務連絡がありましたので、添付の通りお知らせいたします。詳細については、添付文書をご参照ください。

[添付書類](#)

[内閣府\(交通安全白書\)リンク](#)

時事通信社「経済安全保障対策会議・展示会 (ECONOSEC JAPAN)」のご案内

時事通信社より、表題についての周知依頼がありましたので、お知らせいたします。

記

このたび時事通信社では来る 9 月 30 日(火)・10 月1日(水)の2日間、池袋・サンシャインシティ展示ホール B におきまして、有識者による実行委員会と共に、経済安全保障をテーマとしたカンファレンス+展示会「[ECONOSEC JAPAN](#)」を開催する運びとなりました。

経済安全保障への対策を支えるトップランナー80 社の出展参加と併せ、衆議院議員の小林鷹之氏を基調講演・対談に招へい、実行委員会メンバーを中心とした各界第一人者による充実のカンファレンスプログラムもご用意しております。ご来場をお待ち申しあげております。

事前来場登録の受付も開始しております。<https://www.econosec.jp/>

[経済安全保障対策会議・展示会\(ECONOSEC JAPAN\)パンフレット](#)